

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和元年7月5日 ～ 令和2年3月13日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅳ》</p> <p>ア. 広報・相談体制の充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村内外を問わず希望者に対する修学機会を提供する効果的な広報手法や相談体制の在り方について <p>イ. 入学要件・時期に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学齢経過者に対しての円滑な受け入れの在り方について <p>ウ. 教職員研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒への対応の在り方について <p>エ. その他既存の夜間中学校における教育機会の提供拡充に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の学習を中心とした日本語指導の充実の在り方について
調査研究のねらい	<p>○夜間中学校の存在を知ることは、口コミによることが多く、広く多くの人に知られることとはなっていない。市内外を問わず広く広報活動を行う。</p> <p>○不登校等により学べなかった既卒者の方や日本語力の必要な方に対して積極的に受け入れを行うための時期等の在り方を探る。</p> <p>○生徒の背景が多様になり苦慮することが多い。それぞれのケースに対応できるよう研修を計画的に行う。</p> <p>○生徒それぞれの生活の実情に応じた日本語指導の充実を図る。</p>
調査研究の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間中学校の存在を地域に広く知ってもらうため、昨年度に初めて文化祭を開催した。昨年度の経験・反省を踏まえながら周知範囲を広げて今年度も実施した。近隣地域、各種団体の会合などでも広報パンフレットを配付し、前年度以上の来場者に参加してもらうことができ、夜間中学校の存在を広く知ってもらうことができた。文化祭のパンフレットをきっかけとする入学相談が12件あり、夜間中学での学び直しを必要とする人の掘り起こしにも繋がった。 ・市内中学校には不登校で形式的に卒業する生徒もいるため、進路の選択肢の一つとして夜間学級を紹介してもらえるようにパンフレットを市内中学校に配布した。その効果もあって、不登校で形式的に卒業する見込みの生徒が4月から入学する予定である。 ・夜間中学では外国籍の生徒が多い状況を鑑みて、日本語指導の

<p>研修を行う予定であったが講師が見つからず実施には至らなかった。代わりということではないが、8月27日にマイドームおおさかで開催された「夜間中学における日本語指導研修会」に夜間学級の教職員を派遣し、日本語教育を取り巻く状況や課題などについて意見を交わし見識を深めた。研修内容については校内で共有し、夜間学級の運営に生かしている。</p>
--